



## 冬季企画展

### 昔さがし展 ～病とくらし～



2月11日(土)は開場

会期：令和5年1月31日(火)～3月5日(日) 午前9時～午後4時30分 (月・祝日休)

会場：生涯学習推進センター 3階 企画展示室

新型コロナウイルス感染症の流行がはじまって約3年が経ちましたが、いまだ終息を見ることが出来ていません。人類と感染症との戦いは、人類の歴史そのものともいえるほど古くからありました。日本においても、痘瘡(天然痘)や赤痢、コレラ、結核、スペイン風邪など、様々な病と戦ってきました。

人々が病とどのように向き合ってきたのか、ふるさと所沢の地域的特性やそこに生きた人々の知恵など、資料を通してご紹介します。

#### 関連事業

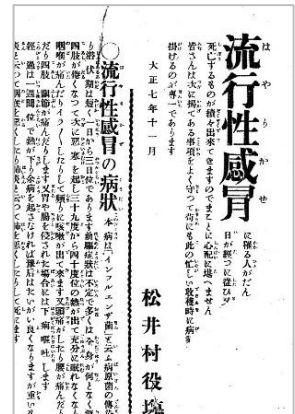
#### 2月18日(土) 昔のマスクづくり体験デー

時間：第1回 午前10時～ 第2回 午後1時30分～

定員：各回先着16組(小学生以下は保護者同伴) 会場：生涯学習推進センター

申込先：文化財保護課 2991-0308 (土日祝休) 2月1日(水)午前9時から電話で受付

持ち物：裁縫道具(針・糸・ハサミなど)、布(ガーゼ等 1m×50cmぐらい)、ゴム(70cmぐらい)



## 市民学芸員養成講座を開催します!!

全日程 参加可能な方

市が進める「ふるさと研究活動」に協力するボランティア「市民学芸員」の養成講座を開催します。資料の調査や展示などの活動に参加してみたいという方は是非お申し込みください。

- ① 2月6日(月)「総論 博物館の役割と可能性」会場：生涯学習推進センター  
半田昌之氏 (公益財団法人 日本博物館協会専務理事)
- ② 2月13日(月)「地域の民俗資料を知る～山口民俗資料館～」会場：山口民俗資料館  
宮本八恵子氏 (所沢市文化財保護委員)
- ③ 2月20日(月)「資料取り扱い講習～民具・古文書の扱い方～」会場：生涯学習推進センター  
文化財保護課職員
- ④ 2月28日(火)「地域博物館に学ぶ～難波田城資料館～」会場：難波田城資料館(富士見市)  
早坂廣人氏 (難波田城資料館 館長)
- ⑤ 3月6日(月)「市民学芸員活動の実際」会場：生涯学習推進センター  
文化財保護課職員および現在活動中の市民学芸員  
時間：いずれも午後1時30分～3時30分  
定員：先着20名  
申込先：文化財保護課 2991-0308 (土日祝休) 1月10日(火)午前9時から電話で受付

詳細は、チラシ・ポスター、  
「翔びたつひろば」1月号を  
ご覧ください

## 所沢市鈴木家住宅資料調査報告書

# 『所沢ゆかりの書画集』

有償頒布中

西新井町にある旧家・鈴木家は、明治44年4月の日本初の飛行場開設にあたり関係者の宿泊先となるなど尽力した家で、当時の貴重な資料を多数所蔵しています。

所沢市では、令和3年度に鈴木家が所蔵する資料を調査し、その成果をまとめた報告書を『所沢ゆかりの書画集』として、現在有償頒布しています。日本航空史の黎明期に活躍し、所沢飛行場における初飛行を行った徳川好敏<sup>とくがわよしとし</sup>や、所沢ゆかりの文化人で、天下の三農人の一人と称された俳人・齋藤俳小星<sup>さいとうはいしょうせい</sup>などの書画等を紹介しています。

### 頒布価格

1冊 2,500円(税込)

### 体裁

A4判 オールカラー 236頁

### 頒布場所

文化財保護課

所沢市並木6-4-1 生涯学習推進センター内



## 高浜虚子も所沢に来た!?

〈ふるさと研究市民トピックvol.27〉

高浜虚子(明治7.2.20-昭和34.4.8 / 俳人・小説家)が、明治31年10月から「ホトトギス」を主宰し活動を始めると、地方の俳壇は次々とこれに参加し、新俳句の中心となりました。

所沢では、齋藤俳小星(明治16.2.20-昭和39.11.16 / 俳人)などが、虚子の門下に入り、「逃水会」を結成して、この「ホトトギス」の流れに加わりました。

そうした中、大正5(1916)年10月31日、虚子を迎えての飯能・所沢吟行会が催され、角三上(※)で大会が開かれました。

※角三上…三上家の屋号。三上家は、酒造や米穀商、後には運送業・旅館なども営む名家であった。天保期から幕末にかけて活躍した、野遊亭一巢(三上半次郎)、里恵夫妻は、同家の出身である。

その時のことを「国民新聞」(大正5年11月5日付)に「盛なりし句會」という記事で掲載されています。

「去る31日午後1時、所澤町逃水會主催にて同町角三上樓に開催されし埼玉俳句大會は、近來稀に見るの盛會なりき、當日ホトトギス吟行團の一行、虚子、鳴雪(※)兩先生を始め、(中略)其他俳小星・太白星・潮音・煤六・思桂など總勢25・6名午後3時過ぎ會場に到着、茲に60餘名の顔を揃へたり、當日虚子、鳴雪兩先生のなしたる講演の概要を摘記すれば、(中略)

虚子先生曰く「吾人はそれぞれの境遇に依りて拝眼を磨くの必要あり、それには古い言葉ではあるが、客観的の描寫即ち寫生と云ふ事を勉めなければならぬ、それを土臺として夫々の主観を加へなくてはならぬ、要するに文學の四分は寫生の力に依るものである云々」宿題・小春・席題・落葉各五句の淨寫終りし頃は散會近き頃にして、小春は鳴雪翁に、落葉は虚子先生に特選を乞ふ事となし、6時散會、それより同町某旗亭に有志の晚餐會あり、8時過ぎ解散したりと」(\*1)

※鳴雪…内藤鳴雪(ないとうめいせつ / 弘化4.4.15-大15.2.20)、明治・大正期の俳人。

また、所沢の飛行場に寄ったことが「飯能、所沢吟行の記(分担執筆)」(『ホトトギス』大正5年12月号)に掲載されています。

「汽車を下りた。停車場前の茶屋で休む筈であつたが、鳴雪翁の反対ですぐ出かけた。あちらに一かたまりこちらに一かたまりして、我々は道を行くのであつた。道が展けていつた。つきあたりに低く門が横はつてゐる。飛行場であると思つた時に、僕の頭にはうれしさのひびきが伝わった。門の前で村長さんと俳小星さんが番兵と何か掛合つてゐる間、我々は黙つて立つてゐた。(中略)飛行場は広かつた。遙に一帶の森が横ざまに延びて、それを越えた遠くの方からは雲が生まれてゐた。その雲は遠くめぐつて飛行船の格納庫の方へ走っていた。(中略)遙かの果ての森は木村徳田両中尉が墜落したところだそうで其の記念塔が淡く光つてその頭を現はしてゐた。(以下省略)」(\*2)

〈参考資料〉\*1…『所沢関係新聞雑誌記事資料2 大正編』(所沢市史調査資料別集8) 市史編さん室/編

\*2…『高濱年尾全集 第7巻・雑纂I』高濱年尾/著 梅里書房

所沢市教育委員会 文化財保護課 ふるさと研究グループ

所沢市並木6丁目4-1 Tel:04-2991-0308 Fax:04-2991-0309 Mail:b29910308@city.tokorozawa.lg.jp